

No.82

すくらむ

2014.12.1 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

巻頭言

インクルーシブ教育システムの構築へ向けて
新所長 前田 英隆

P2

活用しよう！子育てファイルふくいっ子

P3

ユニバーサルデザイン(UD)教育について
～授業のUD研究 全国大会の報告から～

P4

特別支援教育におけるICTの活用
～福井東特別支援学校の実践紹介～

巻頭言 インクルーシブ教育システムの構築へ向けて

福井県特別支援教育センター所長 前田 英隆



障害者の権利に関する条約についての関係省庁の国内法整備がほぼ出そろいました。

教育関係分野において示されたゴールは、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築です。「共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。」と示されています。

そして、そのための手立てとして、教育分野においては多様な学びの場の提供が示されました。全国的には、副籍とか二重籍といったシステムを構築することで改革を推進している自治体もあります。いずれにしても、教育をいつ・どこで・誰と受けるのか、柔軟な選択ができるシステムをどのようにして構築していくかが、これからの学校教育全体の課題として示されました。

あまりにも壮大に描かれた方向性に、具体的な取り組みとして何をしていかなければならないのか、教育現場からは戸惑いの声が多く聞かれています。まずは、障害のある者も、そうでない者も共に学ぶことのできる活動の場を設定していくことが大切です。そのためにも、互いの教育課程に基づいた交流及び共同学習を積極的、かつ継続的に取り組むことが大切なことではないでしょうか。

その中で、子ども同士、学校間、地域そして社会とのつながりを築いていく結果、インクルーシブな教育システムが自ずと構築されてくるものと考えています。そのために何よりも大切なことは、学校関係者の理解と協力、特に学校現場の管理職をはじめ先生方一人ひとりの、教育上支援を必要とする子どもたちの教育に対する意識改革に他ならないでしょう。つながりを発信・形成・進化させていくのは、まさにかかわる人たちの気持ちや考えが繋がってこそはじめて成り立つものだからです。

活用しよう！ 子育てファイルふくいっ子

子育てファイルふくいっ子は、行動や発達において気がかりな面のある子どもの支援のための、福井県方式の支援ツールです。すでに各園、学校に配付されていると思いますが、御覧になりましたか？

このファイルは、

- ・法政大学 黒澤礼子氏が開発
- ・子どもの成長段階ごとの基礎調査票と評価シートを導入

し、子どもの特徴を客観的・総合的に把握し、一人ひとりに合った支援につなぐことができるようになっていきます。また、就学や進学の際に、このファイルを使って支援内容を引き継ぐことで、「途切れない支援」を行うためにも使えます。



子育てファイルふくいっ子の Q&A

子育てファイルふくいっ子 平成26年7月改訂版より引用

Q いつから使うとよいのですか？

A 支援が必要と認められたときに、個人ファイルを作成します。どの段階からでも使えます。

Q 何から始めるとよいですか？

A 支援を検討するため、まずは、**基礎調査票及び評価シートをつけること**から始めましょう。それと同時に、可能な限り保護者の方とお子さんの状況について話し合いをし、理解を得るような働きかけを検討しましょう。

Q 基礎調査票及び評価シートは、だれが何のためにつけるのですか？ それをつけることで、発達障害であるかどうか分かるのですか？

A 本人をよく知っている大人が記入します。保護者や先生等が最適です。本人の**行動や状況を把握するのが**ねらいです。発達障害であるかどうかを判断するためのものではありません。

Q 次にすることは？

A 発達状況シートを記入し、**個別の支援計画シート(幼児期)、個別の指導(支援)計画シート(小中学校)**を作成します。支援会議で話し合ったことを、個別の支援計画等にしていくとよいでしょう。また、可能であれば、**保護者の意見も**取り入れましょう。

Q ファイルの保管はだれがするのですか？

A 原本の保管は、その時点でかかわっている**支援機関**が行います。保護者の理解が得られている場合は、写しを保護者に渡し、綴って保管するように伝えます。なお、内容は個人情報ですので、その取扱いや保管には十分留意ください。

Q 引継ぎはどのようにしますか？

A 保護者の**同意を得たもの**について、引継ぎ元と引継ぎ先の機関で**協議し、ファイルを引き継ぎます**。

Q 取り組みたいのですが、難しそうです。

A まずは**できるところから作成**してみましょう。当センターや嶺南教育事務所特別支援教育課はもとより、各担当の保育カウンセラーや特別支援学校も、作成のアドバイスやお手伝いができますので、お気軽にご相談ください。

※基礎調査票及び評価シートの特徴

- 特殊な知識や専門性を必要としない
- 子どもの状況の客観的・総合的な把握が容易
- 子どもに負担をかけない
- 複数での記入での確性、客観性向上
- 家庭と園、学校での違いを把握可能
- 子どもの変化を見える形で記録可能

「授業のユニバーサルデザイン研究会」は、特別支援教育と教科教育が融合することによって、多くの子どもにわかりやすい授業をつくることを目指した研究会です。第6回大会のテーマは「授業のユニバーサルデザインとインクルーシブ教育」でした。通常学級において、授業のユニバーサルデザインを進めていくことがインクルーシブ教育につながるという考えのもと、その授業改善のポイントは何かを確認する報告が数多くありました。



＜授業のユニバーサルデザインの定義＞

学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、全員の子どもが楽しく『わかる・できる』ように工夫・配慮された通常学級における授業デザイン

基調講演 大阪府・豊能町教育委員会教育長 石塚謙二氏

ユニバーサルデザインの考え方が教育に関連して語られたのは、平成22年の中央教育審議会初等中等教育分科会特別委員会の提言である。この提言では「インクルーシブ教育システム」の構築に向けた取組として「基礎的環境整備」を図ること、そのうえで「合理的な配慮」を工夫することを求めており、その際「ユニバーサルデザインの考え方」を考慮しつつ、進めていくことが重要としている。障害のある子どもも障害のない子どもも授業内容が分かり、学習に参加している実感・達成感を得ながら、充実した時間を過ごし、生きる力を身につけていけるかどうかという、もっとも本質的な視点であることを重く受け止めたい。

ポスター発表

全部で18のポスター発表。
その中の一つを紹介します。

『みんなで笑顔溢れる学級創り～その極意2 気になる子とその周りの子どもに注目～』

UD湘南支部代表

特別な配慮を要する子だけが「気になる子」ではありません。今や、学級全体の子どもたちが「気にしなければいけない子」であるということが言えるかもしれません。最近の子ども達には次のような傾向があります。

- ①自分だけを大切にされたい傾向
- ②自分に敏感で、相手に鈍い傾向
- ③楽しいこと、楽なことに流れる傾向
- ④気持ちを切り替えることが苦手な傾向

笑顔溢れる毎日を子どもたちと共に過ごしていくには、一人一人の自己肯定感の高まりと、集団自己肯定感の高まりが必要不可欠になります。

そのためには、学級づくりにおいて、視野を広げ、見方を変え、「しかけ」をすることが必要です。「集団自己肯定感を高める」に焦点をあて、誰もが笑顔で参加できた学級づくりの取組の報告でした。

具体的には、教師が意識的にチクッと言葉をふわっと言葉に変えていくように働きかけたり、子どもの成長やいいところを学級通信で知らせたり、学級全体で大縄跳びをする取組の中で、子どもに丁寧にかかわったり、といった実践内容でした。

参考文献

『通常学級のユニバーサルデザインプランゼロ
気になる子の「周囲」にアプローチする学級づくり』
東洋館出版社

公開授業

第4学年 算数

授業者：筑波大学附属小 盛山隆雄氏

$6 \times 6 - 5 \times 5 = 11$ という式を提示し、2つの正方形の面積の差を表している式であることを読むところから授業がスタートし、同じように一辺の長さが、1センチ違いの正方形の面積の差を表す式を見せ、どのような特徴があるかを考える授業でした。

授業展開の中で、子ども達が共有化する場面が多くありました。『式の決まりに気が付いた子どもに説明させる→その際説明を分担させて前の子どもの続きを発表させる。何人かで一つの説明をさせていろいろな子どもが参加できるようにする。同じ内容でも一人一人の言葉で表現させる。同じ意味の説明の事例を増やしながらか、まだ理解できていない子への学びを促す。』といった役割分担をして、全員参加型の授業を展開していました。また学力が低い子どもには、ペアで答えを確認させてから指名するという工夫もされていました。『担任一人では39人の子どもが見られない。子ども同士で助け合う仕組みを作ることが大切』『子どもに個人差があるのは当たり前。三段構えの指導を考える。まずは指導の工夫。それでも難しい子どもは個別の配慮。それでも難しければ特化した配慮を考える。教科指導と特別支援教育は連続的である』といった話が印象的でした。

個に応じた指導が、通常学級の中でどこまでできるかが問われてくると感じました。



特別支援教育におけるICTの活用 ～福井東特別支援学校の実践紹介～



福井東特別支援学校は、平成25年度教員指導力向上奨励事業を受け、「授業力向上を目指したICT機器の活用—タブレット型コンピューターの利用を通して—」というテーマで実践研究に取り組みました。三つの研究目的の一つ、「ICT機器の可能性を探る」の実践例をいくつか紹介します。

○学習意欲は高いが、体調面や体力面から、教科書を持ち運んだり、板書を書き写したりすることが困難な生徒への活用

- 1 DAISY教科書の導入で・・・
支援がなくても、時間や場所にとらわれることなく教科書を読むことができるようになり、自主的に学習に取り組む機会が増加！
- 2 スキャナアプリの導入で・・・
板書をタブレットに保存することで、視写の負担軽減と学習時間の確保ができるようになり、学習の質・量ともに向上！

読みの苦手なお子さんや、書くことに困難を抱えているお子さんにも活用できますね！

DAISY教科書について

デージーとは、デジタルDigital アクセシブル Accessible インフォメーションInformation システムSystem の略です。

パソコンで音声を聞きながら、同時に文字や画像を見ることができます。音声で読み上げられる部分の文字がハイライトされるので、どこを読んでいるのかわかるようになっています。また、文字の大きさや、音声の速度を変更することができます。印刷物で提供される図書や情報では読むことが困難な人々に利用されています。

詳細は、HPをご覧ください。

財団法人 日本障害者リハビリテーション協会
<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/about/>

○テレビ会議を使った県外の特別支援学校との交流学习での活用

集団に入れない生徒が、別室でタブレット型PCを通して、パソコン室での交流学习の様子を見られるようにしたことで、学習に参加！



タブレット型PCの活用で、生徒に応じた参加の仕方を考えていくことができますね！

○発声が不明瞭で、発語が聞き取りにくい生徒への活用

絵カードのコミュニケーションアプリ「ねえ、きいて」を使い、校内だけでなく、校外での買い物学習のときなどにも活用。様々な場面で使えるように、オリジナルカードを増やしていった。生徒自ら、『電動車いす』『うれしい』などと、カードを組み合わせて教師に伝えるようになった！



実践研究発表会のご案内

特別支援教育に関する実践研究の発表を通して、広く意見や情報を交換し、指導の一層の充実を図るため、『実践研究発表会』を開催します。「園・学校ぐるみで取り組む特別支援教育」というテーマで行います。教師間の協働のあり方について深められるように、グループ協議も予定しています。ぜひご参加ください。

日時：平成27年2月12日（木）

会場：福井県特別支援教育センター（予定）

☆詳しくは、各学校・機関に配付する開催要項（12月末配付）をご覧ください。また、ホームページでもご案内いたします。

センターだより すくらむ第82号

発行日 平成26年12月1日

発行所 福井県特別支援教育センター

所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1

TEL (0776)53-6574 FAX (0776) 52-6272

E-mail info@fukuisec.jp

URL <http://www.fukuisec.jp>

